



Vol.28

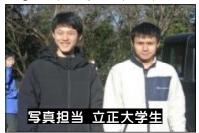
2025年2月9日

埼玉県は、「海なし県」です。でも、鴻巣市と吉見町の間を流 れる荒川の川幅は 2,537m あり、日本一です。また、県土に占め る河川の面積割合が 3.9 %で全国 2 位、水辺(河川、湖沼、農業用水 等)の面積割合は約5%で全国4位です。埼玉県は、多くの水辺 空間がある「川の国」です。県は、人口減少や少子高齢化などの 社会経済情勢の変化によって、成長型社会から成熟型社会へと移

行する中、水辺を県民のゆとりと安らぎを創出する貴重 な空間と位置付け、その豊かな環境を再生し、**誰もが川**フェンスに囲まれた八幡坂東側 に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国 埼玉」を 実現するため、「川の再生基本方針」を定めています。 また、国(国土交通省)は「多自然川づくり」基本方針を 定め、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮ら しや歴史、文化との調和にも配慮した河川管理を行うこ ととしています。時世に合った「里川」の再生です。こ れらは、与えられるものではなく、「こんな川にした い!」という地域住民の願いと行動が大切とされます。

今、和田吉野川の護岸工事が最終段階を迎えています。 大里・吉岡地区の水害防止を第一の目標としながらも、 一部は自然(雑木林、鳥や魚などの水生生物)との調和も図ら れてきました。ただ、全体的には、コンクリート護岸や 人が立ち入れないフェンスが目立ち、時代に逆行する昭 和の遺物「排水路」のように見えてしまうのは、残念で す。これでは、川辺でジャブジャブ犬の水遊びはできな い、石を積んで小魚を呼ぶ川遊びはできない、カワセミ は住みかを追われるかもしれません。残念です。

里山の2月の活動は、2月9日(日)に行われました。小林市長様、 埼玉新聞タウン記者栗原様をお招きして、落ち葉集めと焼き芋会を 行いました。自治会の皆様、立正大学関係者、中学校関係者、個人 ボランティア、吉中クリーンアップ活動(生徒会主催の学校周辺のゴミ拾 い) に参加した中学生など普段の倍以上の参加者が、アツアツの「紅 はるか」の甘い焼き芋を堪能しました。



### 次回活動日

3月9日(日) 9:00~

里山整備を予定(吉中駐車場集合)

# **吉岡グランドワーク実行委員会** SINCE 1999













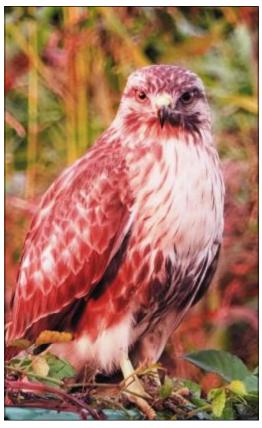
# DE TOBIES



前号で紹介した寺山氏より新たな写真をご提供いただきました。一部を紹介します。 尚、最近は、「後継者」と呼ばれたM氏が、極寒の早朝から熱心に撮影を続けています。

## ノスリ







(ウィキペディアより)

# シラサギを狙うキツネ





